

おりんさんの拡販推進

円型水路協会

可変の施工性を確認

円型水路協会(会長 荒川崇氏)は令和2年度通常総会を書面で開催し、令和元年度事業報告、収支決算報告、令和2年度事業計画案、収支予算案が原案通り可決承認された。



荒川会長

総会開催にあたり、荒川崇会長

は書面で「令和元年度の総会は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、皆様の安全と感染拡大防止を鑑み、書面総会となりましたことを報告します。」

令和元年度の事業として、従来から取り組んでいる東京都の新技術登録のため、自転車通行帯用側溝「おりんさん」の可変勾配施工性の確認実験を行い、問題のないことを確認しています。研修会では日之出水道機器佐賀工場の見学会を開催し、同社製品の製造過程や商品を見学すると共に、当協会取扱製品とのマッチングを検討しました。

令和2年度は既に飽和状態にあるマーケットではありますが、引き続き協会製品に資する各種整備、特に東京都の新技術登録をはじめ、本年3月に滋賀県で採用頂いた「おりんさん」の普及に向けた活動を進める考えで、引き続き会員の皆さんの協力をお願いいたします」と挨拶した。

同協会では昨年度、自転車通行帯用側溝「おりんさん」の東京都新技術情報データベース登録に向け、ケイコン京都工場で施工確認実験を2度行い、可変勾配施工について問題がないことを確認した。

また昨年10月に実施した合同見学会では、日之出水道機器佐賀工場(佐賀県みやま市)と熊本地震の復興状況を視察。日之出水道機器では、鉄蓋の製造工程を見学した他、業容拡大に向けて鋳物の特性を生かして開発した道路用製品や橋梁伸縮装置、建築系部材など、新たな事業展開について説明を受けた。道路用製品の分野では、一部のコン

クリート製品メーカーとコラボも始まっているという。熊本では1000人を超える避難者が身を寄せた益城町総合体育館の建て替え工事や、南阿蘇町で工事が進む新阿蘇大橋の架橋現場など、着実に進む復興状況を車窓から確認した。

今期は品質管理、技術、情報、広報の4部会が連携して、新製品の自転車通行帯用側溝「おりんさん」の拡販を進める計画。東京都新技術情報データベースへの登録に向け、昨年度実施した実験結果を基に「可変勾配対応おりんさん」として登録作業を進める。各部会の主な事業内容は次の通り。

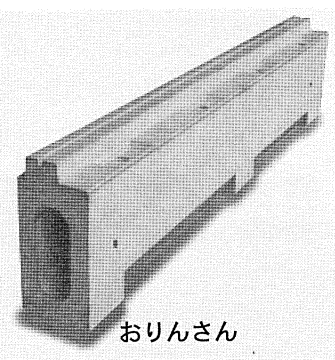
「品質管理部会」▽おりんさんの新規施工実績を踏まえ、会員社への説明会を他部会と共同開催【技術部会】▽可変勾配対応おりんさん」東京都新技術情報データベース登録作業【情報部会】▽おりんさんの積算資料・建設物価版への掲載【広報部会】▽協会HP掲載内容の刷新とメンテナンス。

2019年(2019年1月〜12月)の協会の取扱製品の実績の内訳は、▽統一型円型水路7713m、▽スーパー側溝1859m、

合計9572mとなった。なお、2018年4月から2019年3月のスリップフォーム工法による円形水路の実績は、5万8104mだった。「おりんさん」は新たに滋賀県で実績ができた。

●自転車通行帯用側溝「おりんさん」

「おりんさん」は、円型水路協会の主力商品「スーパー側溝」の新しいバリエーションとして開発した新製品。平成24年に発表された「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」では、自転車の安全性向上を図るため側溝などについて、エプロン幅が狭く自転車通行空間を広く確保できるものや平坦性の高いものへの置き換えや滑り止め加工をはじめ、側溝との舗装すりつけ等の段差等にも留意すること



おりんさん



今期はおりんさんの拡販を推進